

子どもと女性の健康相談室

36



福島医大ふくしま子ども・女性医療支援センター長

水沼 英樹氏

麻疹（はしか）は極めて強い感染力を持つウイルスの感染によって発症する伝染病で、都市部を中心に、この十年で最多のペースで増えていると報道がなされています。

わが国では、二〇〇六

年度から一歳児と小学校入学前一年間の小児の二回接種制度が始まっていますが、一九七七（昭和五十二）～一九九〇年生まれの子はワクチンの定期接種が一回に限られていたために、十分な免疫力を得られなかったこと、お

羊水量の異常、新生児麻疹などをきたす恐れが指摘されています。はしかワクチンは生ワクチンですので妊娠中の接種は勧められません。これから妊娠を計画されている方や周囲の方（特に二十八歳以上の男女）は積極的に接種を受けるようにしてください。なお、麻疹、MRワクチン、MMRWワクチン

妊娠前に予防接種を

元来、はしかは五歳以下の小児が発症する感染症でしたが、わが国では乳幼児期の予防ワクチン接種の強化によって発症数は激減し、二〇一五（平成二十七）年にはWHOによって麻疹排除状態にあると認定されておりま

した。それが、ここに来て再び流行の兆しが出てきた理由として、海外からウイルスを持ち込まれる機会が増えたこと、お

年度から一歳児と小学校入学前一年間の小児の二回接種制度が始まっていますが、一九七七（昭和五十二）～一九九〇年生まれの子はワクチンの定期接種が一回に限られていたために、十分な免疫力を得られなかったこと、お

ことが明らかになっていきます。はしかは感染してから約十～十二日間の潜伏期を経て発症します。初発症状は発熱、咳（せき）、咽頭痛、鼻水、目の充血、目やになどで、これらの症状が数日続いた後、下

憶がある場合には、はしかを疑い、必ず事前に医療機関に電話連絡をし、治療機関の指示に従って受診してください。妊婦がはしかに感染した場合、肺炎を起こすなど重症化しやすく、流産、早産のリスクが高まると言われています。胎児奇形の可能性はないようですが、発育異常や

はしかの流行

高熱となり、同時に発疹が出始めます。解熱後三

日を経過するまでは極めて強い感染力を持っています。実際、二〇一七年に報告された患者さんの予防接種歴を調べた報告によれば、接種歴が不明である例や未接種例および接種一回例に多かった

などの予防接種を一歳以上で二回以上受けた記録のある方は新たに麻疹にかかることはまれと考えられています。女性の場合、接種後二カ月間の避妊が必要ですが、妊娠に気づかず摂取した場合でも、通常は問題なく妊娠中絶などの必要はありません。

次回は4月掲載